

コード No. 18531

**Anti-Human  
RON (G1385) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに : RON 受容体型チロシンキナーゼは HGF 受容体ファミリーのメンバーであり、c-Met と高いホモロジーを有し Macrophage-Stimulating Protein (MSP) の受容体として知られています。RON は結腸、皮膚、肺、骨髄、血液幹細胞、上皮系がん細胞株、顆粒球並びに単球などに発現しています。RON はまず、185 kDa の single chain precursor として翻訳された後 35 kDa の  $\alpha$  鎖と 150 kDa の  $\beta$  鎖に切断され、S-S 結合で会合したヘテロダイマーとして細胞表面に発現します。そのリガンドである MSP は、HGF と高いホモロジーを有し、 $\alpha$  鎖はヘアピンループドメインと 4 つのクリングルドメインから成り、 $\beta$  鎖にはセリンプロテアーゼドメインを有しています。主に肝臓で産生され、マクロファージに作用して補体成分に対する受容体を活性化することで、走化因子として働くことが明らかになっています。
- 免疫抗原 : Human RON の C 端部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 2~10 µg/mL にて使用可能  
免疫沈降法 2~10 µg/test にて使用可能
- 特異性 : RON/BaF3 Transfectant 細胞株\*にて確認  
\*熊本大学 須田教授 (現、慶應義塾大学)より提供